



壊れ始めた日本の子どもたち - 反社会的行動と脳のメカニズム -

Deterioration of Japanese Children

(The Correlation of Brain Mechanics and Delinquency)

予防医学・代替医療振興協会理事長

神津 健一

Teasing, fighting, aggressive behavior, general delinquency, and depression are all on the rise amongst adolescents in Japan. This can be attributed to what the children eat (preservatives and agricultural chemical residues), TV games, education that heavily prioritize regurgitation of information, and other various factors. Granulized lipids and multi-vitamins can help to prevent these delinquent behavior.

日本の子どもたちが壊れ始めている。子どもだけでなく大人までも。常識的なものの判断や行動ができなくなっている。キレル、イジめる、暴力、不登校、その他の反社会的行動や異常犯罪、うつ病や自閉症などの精神障害者が多発している。これらのほとんどの原因は、誤った食生活(食品添加物、清涼飲料、残留農薬、偏食等)やテレビゲームの過熱、知育偏重主義の教育制度、その他の複合的要因が考えられる。

これらを予防し、治療するには「食事療法」が良いのだが、範囲が広すぎるので、端的で手っ取り早い代表的なサプリメントと脳のメカニズムについて紹介したい。

人間の行動は誤った行動も、正しい行動も脳の指示に従っています。体内に蓄積された有害な化学物質は、神経組織や臓器・器官に大きなダメージを与え、ストレスとなって脳の神経組織や脳内ホルモンを攪乱します。

人間の性格は D4DR という遺伝子によってある程度決まるといわれています。しかし、実際には傷を負った神経組織は「神経伝達物質」の集積不足により情報を正しく伝達する機能に欠けています。つまり、発信された情報が目的地である受信基地まで届かないケースが起こります。すると、脳は自分の思い通りにならないことから欲求不満に陥り、ストレスが増し、神経が異常に過敏になり興奮します。これがキレル原因であり、暴力などの原因となります。このとき、極端に血圧が上がったり、血糖値が下がり過ぎて精神的に不安定状態になります。また、脳を安定させるホルモン物質のバランス(放出ホルモンと抑制ホルモン)が壊れ、精神的免疫力の低下によりコントロールができなくなり、衝動的な行動や反社会的行動を起こすようになります。